

千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第1週 (1/2-1/8) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		1週	52週	51週	50週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	16	18	18
	眼科	3	3	5	5
	インフルエンザ*	28	23	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	注意報	千葉市					千葉県
			1/2-1/8	12/26-1/1	12/19-12/25	12/12-12/18	12/26-1/1	
			1週	52週	51週	50週	52週	
小児科	RSウイルス感染症		0	7	4	5	27	
	咽頭結膜熱		1	2	0	3	29	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		11	30	46	42	294	
	感染性胃腸炎		81	145	323	430	1,118	
	水痘		7	5	7	8	51	
	手足口病		2	2	7	13	27	
	伝染性紅斑		1	1	1	3	6	
	突発性発しん		4	7	11	9	38	
	百日咳		0	1	0	0	1	
	ヘルパンギーナ		0	0	0	1	4	
	流行性耳下腺炎	○	8	3	9	6	31	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	211	102	193	117	1,740	
			7.54	4.43	6.89	4.18	8.61	
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0	
	流行性角結膜炎	○	5	0	4	4	23	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0	
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0	
	マイコプラズマ肺炎		0	1	0	1	8	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	1	0	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(3件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	IGRA検査	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	80歳代	菌の検出及び薬剤耐性の確認
E型肝炎	男性	50歳代	血清IgA抗体の検出				

・第1週は、結核1件(1)、E型肝炎1件(1)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(1)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第1週のコメント

<インフルエンザ> 前週より増加し7.54となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベル。

<流行性耳下腺炎> 前週より増加し0.44となった。過去10年の同時期と比べると多め。

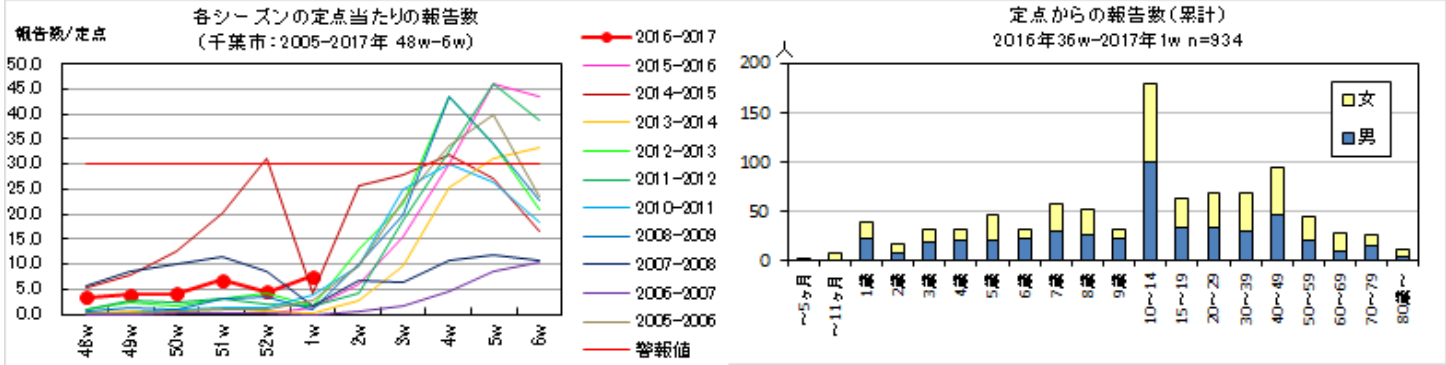
<流行性角結膜炎> 前週より増加し1.67となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

＜インフルエンザ＞

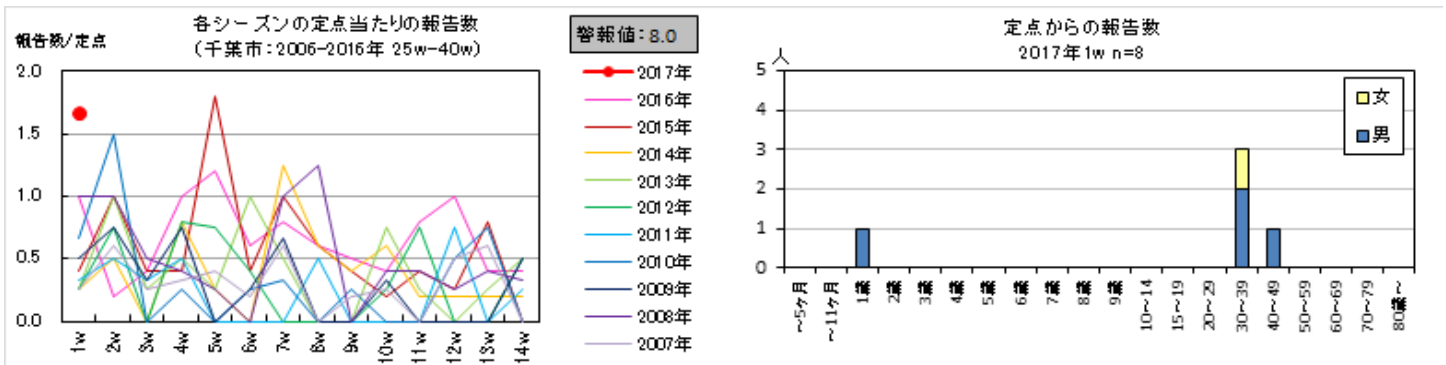
全国レベルの2016年第52週は、過去9年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除き多くなっています。都道府県別では、岐阜県、秋田県、茨城県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同じレベルとなっています。千葉市の2017年第1週は、前週より増加し7.54となりました。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。区別の発生状況は、中央区(12.3/定点)で流行発生注意報基準値を上回り最多となっており、同区の20歳代で最も多く、一年代当たりでは1歳及び3歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2016年第36週から2017年第1週までの累積報告数(n=934)によると、性別では男性が52.1%(487名)、女性が47.9%(447名)で、一年代当たりの年齢階級別では7歳(6.2%:58名)、8歳(5.7%:53名)、5歳(5.0%:47名)の順に多くっており、20歳未満は全体の63.3%、10歳未満は全体の37.3%となっています。

※2009-2010年のパンデミックは割愛しています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルの2016年第52週は過去9年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、宮崎県、長野県、神奈川県に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なめとなっています。千葉市の2017年第1週は、前週より増加し1.67となり、過去10年の同時期と最多となっています。区別の発生状況は、美浜区(4.0/定点)で最多で、同区の30歳代で最も多く発生報告がありました。2017年第1週の累積報告数(n=5)によると、性別では男性が80.0%(4名)、女性が20.0%(1名)で、年齢階級別では30歳代(60.0%:3名)が最も多くなっています。



＜流行性耳下腺炎＞

全国レベルの2016年第52週は過去9年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、富山県、新潟県、和歌山県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2017年第1週は、前週より増加し0.44となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、中央区(1.0/定点)で最多で、同区の2歳、3歳及び9歳で発生報告がありました。2017年第1週の累積報告数(n=8)によると、性別は男女同数(共に50.0%:4名)で、年齢階級別では4歳(37.5%:3名)が最も多くなっています。

